



FUKUSHIMAものづくり 企業ファイル(No.9)

このコーナーでは、福島市に立地しているものづくり企業の知られざる魅力にスポットをあて、紹介します。

今回は「NITTOKU(株)」さんです。

NITTOKU(※旧名：日特エンジニアリング)は、コンピュータ制御技術を用いて、製造現場で使われる機械装置やフルオートメーションラインなどのカスタム品を開発・製造・販売する企業です。

特に、コイル用自動巻線機の分野では、世界No.1のシェアを持ちます。電気自動車に使われるモーターや電装品からスマートフォンに用いられる超小型コイルまで、同社の巻線機がコイルやモーター製造の現場で活躍しています。



▲コイル用自動巻線機世界No.1企業

NITTOKU株式会社 福島事業所
世界が評価する納得の品質を福島から

【会社概要】

所在地：福島市飯野町明治
(本社：埼玉県さいたま市)
代表者：近藤 進茂
設立：昭和47年9月
資本金：68億8,492万円
社員数：837人(令和2年3月・連結)
主要製品：コイル巻線機、ワインディングシステム、精密FA、メカトロニクス、非接触ICタグ・カード、蓄電システム
連絡先：562-4444(代)

■問／企業立地課 ☎525-3723

クローズアップ

最速1.2秒に1枚生産可能です

👉 マスク製造装置の開発の苦労話を教えてください👉

新型コロナウイルス感染症による社会的なマスク不足問題を、当社の製品開発力で何とかしたいと思いました。安定した形状作りで試行錯誤の研究を重ねて、マスク製造装置(不織布三層マスク)の開発に成功しました。完成したマスクは社内の福利厚生で感染症予防にも役立てています。



👉 ひとことメッセージ👉

コロナ禍対応設備で、興味のある企業様がいらっやいましたら、当事業所までご連絡ください。これからも社会の要請に応える製品開発に取り組んでいきます。



We Love♥ ふくしま!

第31回『大震災と新型コロナ』

9月19日、震災復興パネル展が福島学院大学福島駅前キャンパス1F学生ラウンジで始まりました。

大震災から9年半。発災からの新聞記事を見ると、さまざまな思いが蘇ってきます。

人それぞれに思いがあるでしょうが、何が辛かったかといえば、やはり放射能との闘いでしょう。見えない放射能の恐怖、福島だというだけで受けた差別や偏見、そして放射能への考え方の違いなどによる市民間の分断。

県外に自主避難し「放射能」と学校でいじめられ、何度も死のうと思いつつ「つらいけど生きて決めた」と綴った中学生の手記には、胸が張り裂けそうな思いでした。

いま、新型コロナに関する誹謗中傷、偏見や差別が後を絶ちません。SNS上で感染した方の個人情報や暴露したり、職場や学校に批判の電話をしたり、医療関係者の家族が「コロナ」と呼ばれたり、施設利用を遠慮させられたり。

● 感染した患者さんは被害者であり、精神的にも傷ついています。必要なのはあたたかい励ましであり、決して傷口に塩を塗るような攻撃ではありません。

● 医療関係者は、最前線で常に感染リスクの恐怖と闘いながら、私たちの命の砦を守っています。家族のもとで疲れを癒したくても、自宅に帰らずホテルに宿泊し、医療を続ける人もいるのです。私たちに求められるのは、医療関係者への心からの感謝と敬意、安心して医療に従事できるようサポートすることでしょう。

● 新型コロナで批判される風潮が高まると、感染した人が相談をためらったり、調査に必要な情報を隠したりするようになります。そのために、拡大防止の対応が遅れ、感染拡大の波が起きやすくなってしまいます。

● 見えない恐怖に立ち向かうために大切なことは、あたたかな励まし(エール)と私たちの連帯。私たち福島の県民は、それを一番分かっているはずで。

● 改めて大震災の教訓を思い起こし、市民の結束を一層強めて、コロナ禍を克服していきましょう。

福島市長 木幡 浩